



「まるごと茨城」とは…茨城県の提携生産者と一緒に茨城県の食料自給率向上を進めながら、生産現場を知る活動です。

実施日:2021年9月12日(日)

場所:げんき米生産体験田(茨城町)



田んぼの学校

げんき米生産体験田

稲刈

▲2021年9月12日 コンバインで刈り取りをする海老沢会長 (有丸エビ倶楽部)。

収束の気配を見せていた新型コロナウイルスが五度目の猛威を振るった2021年8月。その勢いが収まらないまま、「まるごと茨城」の生産体験田は収穫の時期を迎えました。当然、組合員の参加はナシ、事務局だけがその様子を見に行く格好に……。これを書いている今(2021/9/24)は、第5波も収まってきましたが、今年も世界中の人々がコロナに振り回され、「まるごと茨城」の活動は一度も行えませんでした。

田んぼの学校・・・生産者の田んぼを2001年からお借りし、げんき米(※)生産体験田としてこれまで20年間(2021年現在) **無化学肥料、無農薬栽培**の米作り体験(圃場測定、田植え、草取り、生き物調査、稲刈り)を行っています。田植えや稲刈り(秋には新米)の時には生産者に「げんき米」を羽釜で炊いてもらい、参加者全員で試食を行っています。(コロナ禍のため試食は中止中)

※げんき米とは・・・生活クラブ茨城の組合員が茨城の地場生産者(有)丸エビ倶楽部に生産を依頼し、毎年作付けを行っているお米です。げんき米1号(ゆめひたち)と2号(コシヒカリ)、玄米(コシヒカリ)の3種類を取り組んでいます。農薬の使用回数は多い場合でも2回までの使用(県の定める基準値以下の使用回数)としているなど、安全性も考慮し、茨城県特別栽培農産物の承認も受けているお米です。

● 過去のまるごと茨城の活動の様子は、こちらから閲覧できます。

<https://ibaraki.seikatsuclub.coop/member/marugoto/report.html>



■ 積算温度に達する日数



▲ 大きく実った稲穂。

夏の気温の低さが、お米づくりには良い結果に

そんな人々の状況とは裏腹に、生産体験田のお米の出来は「**上出来**(丸エビ倶楽部・海老沢会長談)」とのこと。その要因を聞くと、どうやら「お天気」にあるらしい。今年の夏はお盆時期に台風の影響があったり、その後も曇りや雨が多かったりと、決して良い天気ではなかったと思うのですが……。

お日様が照らないということは、気温があまり上がらないということ。

つまり「積算温度に達するまでの日数が長くなる」ということになります。

通常、げんき米生産体験田のお米が積算温度に達するのは 30 日程度ですが、今年は 35 日かかりました。いつもよりも日数がかかったことで稲穂が実る時間が増え、お米の出来が良くなったという訳です。

そのぷりぷりに実った稲穂を、会長がキレイに刈り取ってくれました。



▲ 化学肥料・農薬を使わずに栽培したお米です。

■環境に配慮したお米づくり



▲刈り取った稲はすぐに乾燥機に。



▲草取りをしっかりとしないと後が大変です。

エネルギーロスも意識して

お米の出来が良いのに、会長の表情は曇り気味。その理由を聞いてみたところ、「この雑草がね」と、稲と一緒に大きく育ってしまった一部の雑草を指さします。

「草取りの時にちゃんと取らないと、収穫する時に邪魔になるんですよね」

6月に職員・組合員の有志を募って実施した草取りでしたが、完璧にはできていなかったようです。

「それに」と会長が続けます。

「雑草が大きく育つと、それが稲にもたれかかって、穂に田んぼの水がついてしまう。そうすると、水分が多く含まれてしまうんですよ」

ということは？ 刈り取った稲を乾燥機にかけながら、会長が続きを話してくれました。

「乾燥するのに時間がかかってしまいますよね。エネルギーが無駄に消費されてしまいます」

なるほど。本当に環境にやさしいお米を作るためには、無駄な作業をしない＝エネルギーを使わないことが重要なんですね。草取りをしっかりと行わないと、エネルギーロスにつながってしまう訳です。

何はともあれ、2021年の生産体験田のお米は、無事に収穫を終えることができました。生産体験田のお米は農薬と化学肥料を使わずに、有機肥料のみで育てた大変貴重なお米です。こちらは、去年に引き続き今年もコロナ禍で田植え体験が実施されなかったため、一般組合員にも利用可能です(数量限定です。規定数以上の申込みがあった場合は抽選になります)。

来年こそは、「まるごと茨城・田んぼの学校」が再開できますように！



**生活クラブ茨城と丸エビ倶楽部は、
人と環境にやさしいお米作りを目指しています。**

田んぼの水は川を流れ、やがて湖や沼、海に達します。もし、多量の農薬が使われていたら、それが田んぼだけではなく、川や湖沼や海に流れ出て、水が汚染され、そこに住む生き物に悪影響が出る可能性があります。必要最低限の農業にとどめることが、人と自然の未来を守ることに繋がります。

2021年の「まるごと茨城・田んぼの学校」の活動は終了いたしました。2022年の開催については、カタログ・HP・Twitter等でお知らせいたします。